

研究者の横顔			
フリガナ	タカハシ リョウタ		
お名前	高橋 良太	助成金額	100 万円
ご所属	東京大学医学部附属病院 消化器内科		
研究テーマ	膵臓癌免疫微小環境におけるVCAM-1の機能解明及び治療応用についての検討		
1：研究者になろうとしたきっかけ			
<p>消化器内科の臨床医としてがん患者さんの診療を行う中で、当時膵臓がんに使える薬が今よりもさらに少なかったことや、同じ治療でも効き方に個人差があることを疑問に思っていました。大学院でマウス疾患モデルと臨床検体を用いた基礎研究を行う機会を得ることができ、がんの病態について感じている疑問を自分で解明できる可能性があることに魅力を感じました。その後も主にマウスモデルを用いた研究を続けていますが、きっかけとしては大学院での経験が大きいと思います。</p>			
2：助成研究の内容紹介			
<p>膵臓癌をはじめとして多くのがんでは腫瘍免疫が低下しており、免疫チェックポイント阻害薬などの治療への抵抗性につながっています。これまで多くの研究が行われていますが、膵臓癌における腫瘍免疫低下の克服は実現していません。自身の研究で、細胞接着因子を介した膵臓癌細胞と免疫細胞との相互作用が膵臓癌の腫瘍免疫抑制機序において重要な役割を果たしていることが示唆されています。本研究ではこの相互作用の標的細胞や機序をさらに解明し、新しい治療標的として確立することを目指しています。</p>			
3：2の将来に繋がる結果予想・目標			
<p>本研究を通じて膵臓癌における腫瘍免疫抑制機序の一端を明らかにすることができれば、従来の免疫チェックポイント阻害薬がほぼ無効である膵臓癌に新しく免疫を介した治療法を導入できることになり、この難治癌の予後改善につながることを期待できます。さらに腫瘍免疫の抑制が見られる他のがんにおいても同様の機序が働いている可能性があり、今後の研究により応用範囲の拡大も期待できます。</p>			
4：全国の RFL 関係者に一言メッセージ			
<p>この度は大変貴重なご支援を頂き、リレー・フォー・ライフ関係者の皆様にこの場を借りて心より御礼申し上げます。誠にありがとうございます。リレー・フォー・ライフの活動はがん患者さんやご家族にとって大変励みになる、重要な役割を持っていると思います。がんを克服したいという多くの方々の願いを託された研究費であることを再認識して身が引き締まる思いです。世界中のがん患者さんやご家族の力になれるよう、全力を尽くしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>			